



# ippo(いっぽ)

【研究主題】児童生徒が「経験から考え、行動する力」を高める授業づくり  
～「何を学んだか」「何ができるようになったか」という視点を通して～

今回は、12月7日の公開研究協議会の中学部分科会の話題について紹介します。

特定授業 中学部3学年 生活単元学習

みんなでやるぞ！中3 ショップ パート4 ～ファイナル感謝祭～

協議題『生徒ができたこと、頑張ったことを実感できる手立てや評価の工夫』

## ★授業について（授業者より）★

- 活動が3年目となる長期単元である。自信をもてなかった生徒たちが仲間と協力しながら課題解決していく経験をとおり、自信をもって生活する姿を目指して実践してきた。自分の得意や不得意が分かたり友達の良さを見つけたりする姿が見られるようになった。
- 校内ショップを地域での販売活動につなげたり、実際のカフェの見学と取材、パンの作り方を習ったりするなど、本物に触れる機会を作ってきた。
- 生徒の特性や得意を考慮し、ショップについての話し合いをするショップ会議グループとショップに必要なグッズを作る制作グループに分かれて活動する時間を設けている。ショップ会議グループでは、生徒同士の話し合いは最初は難しかったが、経験を積み重ねるうちに友達の意見と共通する点に気づいたり、折り合いをつけたり、集団の中で自分の意見を話したりする態度や姿が育った。制作グループでは、友達の意見を取り入れてチラシやストラップ作りに取り組むことで、学年全員で中3ショップの成功を目指して取り組む気持ちを育てたいと願って活動してきた。グループが違っても互いの活躍を認めあう姿が見られるようになってきた。



## ★協議題について（参加者より）★

- 目標が授業の間にいつでも確認できるよう提示されていた。よりよい話し合いにするため、キーワードを板書し、常に確認できるようになっていた。
- 答えがないことについて深く話し合っていた姿から、3年間の積み重ねの成果が感じられた。根拠を明確にして話したり、友達の意見を受け入れたり、話し合いをとおり自分の考えを広げたりすることができていた。教師は細やかに生徒の意見を引き出すような言葉掛けをしていた。生徒自身に自分の考えがしっかりと生かされていくという安心感があるため、自信と誇りをもって活動できていた。
- 2つの活動グループの結びつけ方にも工夫があり、目標を共有して取り組む姿勢に一体感があつた。制作グループは、実態に応じて、嗅覚、触覚など五感を刺激する教材も用いられていた。クリームパンの香りがする布に興味を示して近づいてきた生徒の心の動きを見逃さず、それを生徒同士のかかわりとして評価につなげる教師の姿勢が見られた。
- ショップ会議グループは、生徒自身が自分の考えを整理するために使用したホワイトボードが教具として有効だった。マグネットの大きさや厚みを工夫することで操作しやすくなる。
- 授業のねらいが話し合いのスキルアップなのか、ショップの質を高めることなのか、リンクのさせ方にもう少し工夫が必要か。

## <指導助言>

秋田県総合教育センター 村松 勝信 主任指導主事より

### ① 研究について

- 研究と実践がどのようにつながっているかという視点で参観した。理論と実践が十分に練られた研究だと感じた。学習指導要領の改訂の観点から、主体的な取り組み、対話的な学び、深い学びについてしっかり検討されていると感じた。理論と実践を重ねていく上で大事なものは、学部としてどう重ねていくかということである。1年生（1年目）、2年生（2年目）、3年生（3年目）という段階をしっかりと見据えて研究を進めていく姿勢と手立てが見える研究だった。研究として経験を大事にしたことは、学習指導要領にも記されており、基本である。学年での経験を生かしながらステップアップしていく研究のあり方は参考になる。
- 個々の目標と精度を上げていくことは非常に大事な視点である。目標と評価は一体である。

### ② 授業について

- みんなで積み上げる学びの時間になっていた。実態差にきちんと対応していながら、集団として1つのまとまりのある授業であるのが生活単元学習である。導入では生徒一人一人がT1に注目して何かをつかもうとするという姿勢があった。この姿勢は前回の参観のときと異なる。背景には、教師の日常的な共通理解と情報交換により授業改善が確実に図られたからであろう。
- 全体の課題を共有した上で、さらに個の課題としておろしていくプロセスについては、今後検討が必要である。前時の課題を本時に生かすことについて、改善が図れるとよい。本時のねらいに前時の課題が生かされているかどうか、もう一度確認しながら進めていく必要がある。
- 話し合い活動は非常に難しい。自分が参加している足跡が残り、自分の意見がしっかり伝えられる環境が整っているかが大切である。話し合い活動の中で非常に課題であるところは、意見をすりあわせる時間である。すりあわせて建設的な結果を残さなければいけない。授業では、互いの得手不得手を理解し合って話し合いが進められていた。集団の人間関係がしっかりできているのだと思う。思考の仕方、判断、表現する力は一人一人異なる。教具のボードを使ってまずは自分で考え、そこに根拠を添える、など思考の導き方に教師の仕掛けがあった。このような仕掛けを積み重ねてきた足跡が見られた。
- 将来職業についた時、自分がこれしかできないと訴える力も必要かもしれないが、意見をすりあわせる力は必ず有効な力になる。
- 評価は言葉や文字だけではない。実際にできたものだったり、匂い、触感等いろいろなことから評価していくことが大事だと思う。評価は生徒の実感を伴うものとしてしっかり残していく必要がある。障害の重い生徒には実物で示してしていくのが有効である。ショップ会議グループの評価については、話し合いで出てきた言葉を書き留め、それを評価としてしっかり活用していくこと。例えば板書をワークシートにして活用してもいいし、ワークシートを最後に板書して評価するでもいい。全体の目標（評価）と自分の目標（評価）、他者からの評価をうまく活用していくことで評価の質が変わってくる。
- 目標をしっかり妥当性のあるものにしていくことが、評価の際に必ず直面する課題である。本時の目標、評価を一連の過程の中でしっかり捉えていく必要がある。